



町民の生活は楽か

答 大変厳しい

問 岡田良成

農林業は低迷し、所得は上がらず建設業も不振で雇用の場がない。町民の生活実態をどのように把握しているか。

「森の工場」

答 産業建設課長

農林業は、高齢化、価格低迷、燃料価格の高騰。建設業は、建築基準法改正などの影響を受け、現状維持さえ難しく廃業せざるをえない事業所などが出ている。

林業では「森の工場」、基盤整備の導入で素材は流域内で加工、付加価値を付け、販売し雇用につなげたい。

町外量販店へ流出

答 池川地域振興課長

基幹作物の茶の価格は下がり、林業は国内産材の需要が増えたと聞か、材価への反映は見られない。

建設工事などの減少や、町外量販店への客の流出で、商業も厳しい経営状態と思う。

日鉄鳥形山が貢献

答 仁淀地域振興課長

間伐の推進や作業路整備に取り組んでおり、農作業受託制度、中山間直接支払い制度を利用し、茶園の荒廃や耕作放棄地の防止などに努めている。仁淀には日鉄鋳業鳥形山鋳業所があり、就労の

場に貢献している。

建設業の事業縮小で雇用の場が減少

答 仁淀支所長

近年事業所自体の減少はあまり見られないが、建設業などの事業縮小で雇用の場の減少につながっている。生活負担は大変なものと感じている。

高齢者への配慮を欠いてはならない

答 池川支所長

池川では高齢者率が50%を超える。諸制度の導入には、国の基本政策の段階で高齢者への尊厳と配慮を欠くことのない対処がされるべきと思う。

問 岡田

作業道へ補助が出せないか。

答 産業建設課長

作業道等の基盤整備、間伐搬出、バイオマス関連に数千万円の補助をしている。

モノレール、乾燥機など、財政と調整をとり、できる限りの支援は必要だと思う。

問 岡田

茶は肥料代も上がり、

答 副町長

高齢者の所得を上げるため、作った野菜を、池川カット工場に職員が運ぶことができないか。

問 岡田

答 副町長

大変な時であり一時的な補助金を地域振興基金から出せないか。

問 岡田

町内の酒屋は量販店のよう協同で仕入れ、安い価格で販売し、生き残る指導はできないか。

答 副町長

酒屋の件は、商工会などでスクラムを組むことができれば一つの方法だと思う。

職員採用は町内居住を条件に

答 在住が原則

問 岡田

池川茶は一等一席の農水大臣賞に選ばれた。特産品を展示し、町外にアピールしては。

答 町長

展示場は検討する。

問 岡田

職員の採用は町内で居

答 町長

住できる者を採用すべきでは。特別な事情を除き、在住を原則と、条件をつけている。

18年度より赤字繰入となり経費節減、経営改善に取り組んでいる。
19年度決算で人件費が71%を占めるが、14床の有床診療所等地域医療維持で人員減は難しい。

答

町 長

町内には、西村医院、安部病院、酒井医院、大崎診療所があり、住民の生命、健康を守る大切な地域医療機関である。
大崎診療所は合併前より公的資金で運営されているが、平成17年度に2700万円、18年度に5400万円、19年度は4700万円を繰り入れている。
今後有床診療所で運営していくのか。

問

片岡政徳



答

3〜4年後が転換期

大崎診療所の

赤字対策は

診療収入増も見込めず経営は厳しい。
医療改正により平成23

年度末に介護療養病床の廃止、耐震補強が予想され転換期となる。

ゆの森 改修工事 8000万円の投資は無謀

答 リニューアルは必要

次には多目的施設を検討と、一施設に多額の公金を入れないと、目標の地域振興が図れないのか。
町民は値上げなどで節約の生活である。賛同が得られるか。

「ゆの森」は平成17年度、18年度で約6200万円、日浦邸購入で多額の公金を投入してきた。
二階大広間をレストランに改造で、設計管理費465万8000円、工事費7900万円の計画書が提出された。大広間のまま宿泊客の夕食の場として利用し、人の流れを見てはどうか。

問

片 岡

答

産業建設課長

レストラン利用が減少傾向で、原因は景気の後退、運営体制の在り方、夕方の宿泊客中心の利用が挙げられる。

一般客は利用できず、地元からのクレームもあり、問題点を解決し、多くの人が利用できる内容とし、特に二階大広間の川側は小窓で閉鎖的であり、ゆつたりした空間にしたい。

その他、浴室改修、外壁の塗装、駐車場の補修も行う。

問

片 岡

財政難の時期、一施設に行き過ぎと考えるが。

答

産業建設課長

宿泊施設は定期的リニューアルしないと利用客も減少する。

西日本で5番のランクで、町内外の交流拠点となり、利用客が多ければ観光センターにも案内している。

答

町 長

町の観光施設の拠点で県外客もあり、観光に対

する整備は施設の改善も必要。
過疎債の対象となる見込みであり、地域振興基金も極力使う。



12年目を迎えた「ゆの森」、宿泊客の評価は高いが、地元からは利用できないと不満の声が出ている(名野川)



医療、保健、福祉の 複合施設の建設を

答 検討する

問

西森常晴

NTT跡地に福祉施設をつくると聞か。

答

保健福祉課長

現在のデイサービスセンターは、要介護認定者の増加に対応できる設備が確保できていない。手狭になった「社協」の事務所の問題もあり、総合的な福祉施設の整備を検討している。

問

西森

先般、福祉の先進地として有名な、宮城県涌谷町を視察してきた。

町営の病院（医療）を中心に、保健、福祉施設が同じ敷地にあり、合理的で健全な複合施設経営を行っている。

答

副町長

大崎診療所は今、耐震診断を行っており結果待ちだ。

問

西森

町内の児童・生徒数の資料を見る限り、中学の統合は今がベストだ。統合により空いたスペース（吾川中）に診療所を中心とした総合的な医療・保健福祉施設をつくってはどうか。

答

副町長

現在、中学生は125人で、部活もバレーボールなどは合同チームを組

学力、スポーツ 日本一を目指せ

答 その気概をもって

問

西森

4月22日に行われた、全国学力学習状況調査で中学校の結果が良かったと聞か。

答

教育長

国語、数学とも高知県平均を上回り、全国平均と比較しても、ほぼ同等もしくは上回るという結果が出た。

一方、小学校は厳しい結果が出ている。中学校は、去年が県平均並みであり、学年団による学力差も考えられ、引き続き来年にかけ状況を見ていきたい。

問

西森

「百ます計算」で有名な蔭山英男さんは、山口県の山の小学校で、朝の短い時間に、漢字の練習、計算を繰り返し繰り返しやって、早い時期に子供たちに学習習慣を着けることにより、結果として、多くの教え子が国立大学に受かった実績を残した

ことで知られている。学習習慣をつけることは大事だ。

答

教育長

毎朝、小テストを行っている中学校がある。訓練を続けていくことで、勉強する雰囲気を作る。この実践が他の中学校でもできればと期待をしているところだ。

問

西森

前の鳥取県知事の片山

答

教育長

学力日本一、スポーツ日本一の気概はもって望むべきと考える。

さんが断言している。教育の良否は、学校の経営者である教育委員会の力量によって左右されると。



「文武両道」日本一を目指して（吾川中）



平成16年、(株)ソニアは佐川町に製材工場を立ち上げたが、開始以来赤字経営が続き存続が危ぶまれている（佐川）

問

大原儀郎

加工部門は、16年、現

在の佐川町に製材工場を立ち上げ、運営は森林組合に委託する計画であったが、一年目にして、赤

答 危ない

(株)ソニア大丈夫か



答

町長

武藤教授の話では、大手の企業の注文を受ける

問

大原

17年度に1億1200万円、18年度が1億1400万円、19年度は改善するとの話だったが、1億5500万円の赤字となっている。

答

町長

17年度から高知工科大の武藤教授の指導を受け、18、19年度にかけて、国庫事業で乾燥機などの導入を図り、経営改善に取り組んできた。

問

大原

には量産が必要不可欠ということで、一直を二代にし生産量を上げてきた。

挽けば挽くほど損が大きくになると再三、忠告してきた。ソニア管内だけでなく、管外の木まで買い、継ぎ足し継ぎ足し赤字を増やしてきた。

答

町長

生産量は上げたが、見合う製品価格が低く、挽けば挽くほど赤字が拡大していった。

武藤教授は、工科大を辞めたので、ソニアの指導はできなくなったと言っ

答

町長

私の責任であり、力不足を痛感している。今後

問

大原

町長は責任をどうとるのか。

問

大原

も厳しい環境が予測される。現在、全国木材組合連合会に経営診断を依頼している。その結果をふまえ、決断したい。

答

副町長

ソニアは、創業以来赤字経営で、資金の不足は資本金から補填し経営を存続してきた。林産部門は、一定200万円程度の黒字になっている。実質の赤字は製材部門で、経営存続の危機に直面しているといっても過言ではない。

問

大原

先の議会で「ヒマラヤ桜」一団地一万本の植樹を提案した。

四十万川流域では、活性化策として、山桜とヒマラヤ桜を4万10本植える計画のようだが。

答

副町長

計画を十分煮詰め、しっかりとした団体には援助していきたい。

問

大原

来年、一万本の定植を計画しているが、500万円の補助をお願いできないか。

答

町長

十分検討して対応したい。

ヒマラヤ桜に

補助を